



2019年度  
**決算概要**

2020年5月19日  
日揮ホールディングス株式会社  
グループ財務部長  
田口信一

グループ財務部長の田口です。

これから、2019年度の決算概要についてご説明させていただきます。

1. 2019年度ハイライト
2. 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
3. セグメント情報
4. 連結貸借対照表
5. 連結キャッシュ・フロー計算書
6. 受注の状況
7. 2020年度の業績見通し

## 1. 2019年度ハイライト



- 国内外の複数案件において順調な工事進捗等に伴い採算が改善。粗利益率は前年度比1.7pt上昇。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響は、現時点で想定されるリスクをプロジェクト採算に反映。
- 強固な財務基盤を引き続き維持。営業CFの大幅プラス等により足許で流動性が改善。
- 2019年度配当は期初発表通りとし1株当たり12円。

3

最初に今年度のハイライトです。

国内外案件で順調な工事進捗等に伴い採算が改善し、粗利益率は前期比で1.7ポイント上昇しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、現時点で想定されるリスクを遂行中案件の採算に反映いたしました。これにより約80億円の粗利益の下押しとなっています。

財政状態の方では、強固な財務基盤を維持しています。2019年度は、営業キャッシュフローの大幅なプラス転換により、現金及び現金同等物が約1,000億円増加し、足下の流動性も改善しました。

こうした状況を踏まえ、配当は期初発表値を維持しています。

## 2. 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 (決算短信 P.8~9)



	FY2018	FY2019	増減	【億円】 修正発表 通期予想値
売上高	6,192	<b>4,808</b>	△ 1,384	4,800
売上総利益	449	<b>433</b>	△ 16	430
利益率	7.3%	<b>9.0%</b>	+1.7pt	9.0%
営業利益	232	<b>202</b>	△ 30	200
経常利益	323	<b>223</b>	△ 99	220
親会社株主に帰属する 当期純利益	240	<b>41</b>	△ 198	40
当期純利益	242	<b>42</b>	△ 199	
その他の包括利益	△ 62	△ <b>185</b>	△ 122	
包括利益	179	△ <b>142</b>	△ 322	

4

次に連結損益計算書及び連結包括利益計算書です。

5月12日発表の修正後予想値のと通りの着地となりました。

売上高は、受注残高減少の影響を受け、前期比1,384億円減の4,808億円。

売上総利益は前期比16億円減の433億円。

粗利益率は1.7ポイント改善して9.0%となりました。

営業利益は前期比30億円減の202億円です。持株会社化による直接部門と間接部門の色分けの変更などにより販管費が前期比で14億円増加しました。

経常利益は前期比99億円減の223億円です。円高影響による為替差損及び貸倒引当金繰入れにより営業外費用が前期比76億円増加しました。

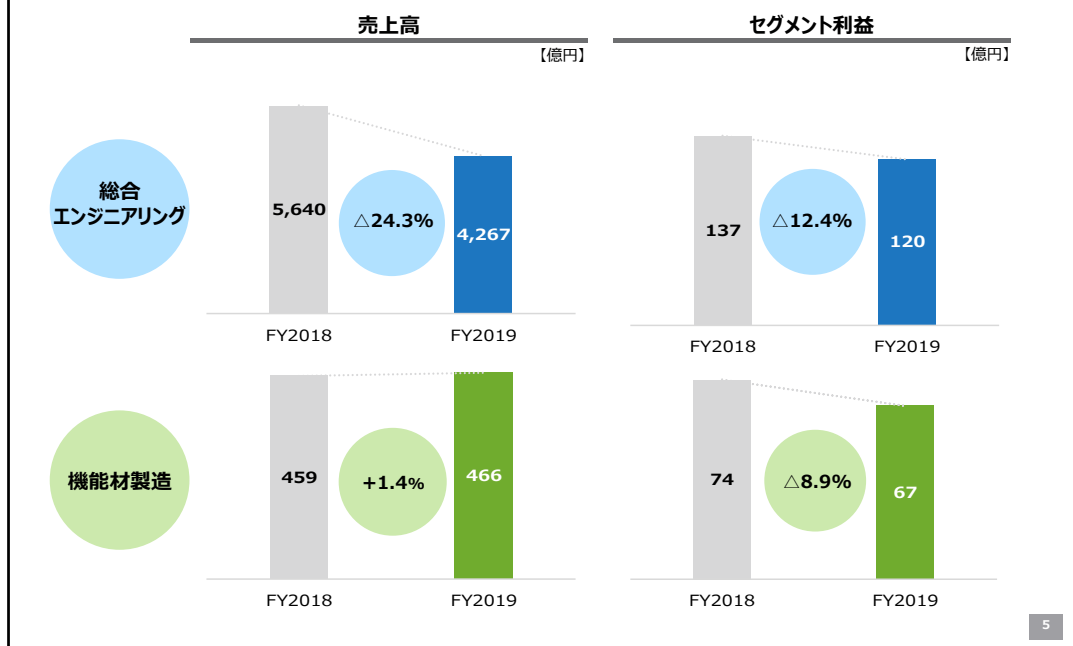
親会社株主に帰属する当期純利益は前期比198億円減の41億円です。

第4四半期に政策保有株の売却や事業投資関係の資産売却を行い特別利益の計上があり、税引き前利益は期初想定並みでした。

その一方で、外国税額の増加などにより法人税等が前期比134億円増加しております。

包括利益は円高による為替換算調整勘定のマイナス影響を受け142億円のマイナスとなりました。

### 3. セグメント情報 (決算短信 P.15)



次にセグメント情報です。

総合エンジニアリング事業では、ヤマルLNGプロジェクト、イクシスLNGプロジェクトといった大型LNG案件が前期で終了したことから売上高は前期比24.3%減の4,267億円となりました。

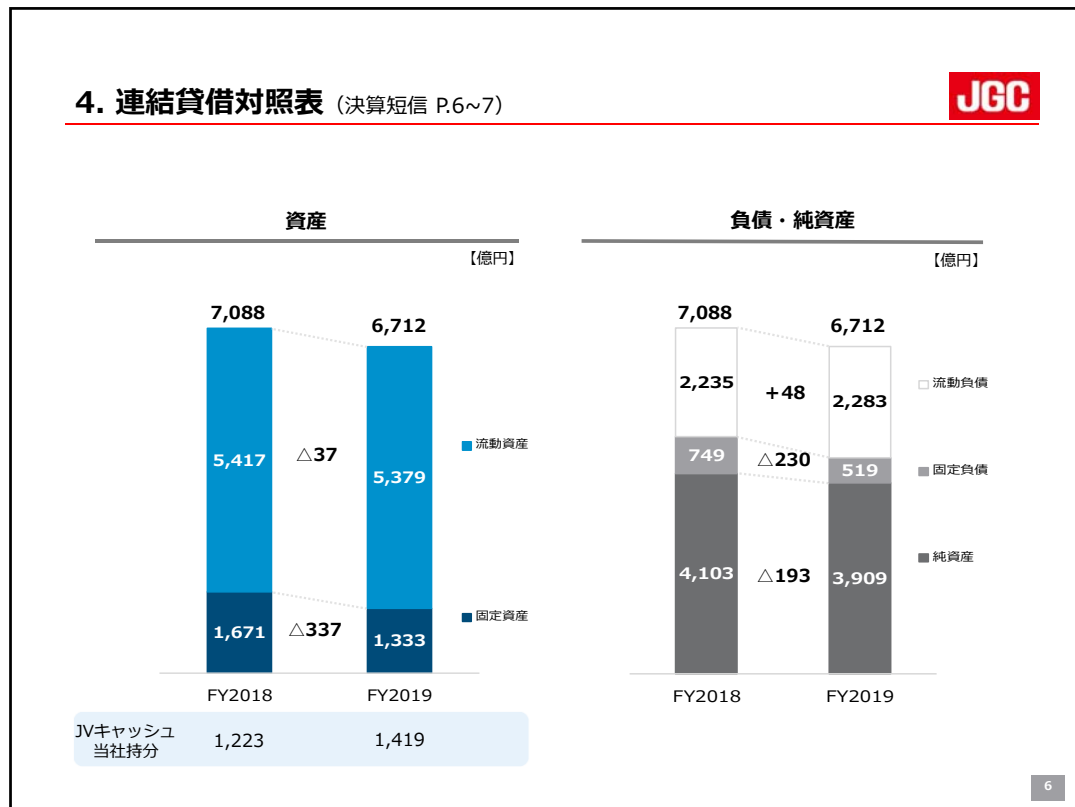
セグメント利益は12.4%減の120億円でした。第4四半期には海外案件でのチェンジオーダー妥結や終了案件でのコンティンジェンシーの取崩し、その他にも国内外案件の採算改善があり粗利益が大きく上振れました。一方で、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、進行中案件への現時点での影響を精査し、納期の延長や生産性低下などによる追加コストを見積もり、一部案件においてそのリスクをプロジェクト採算に織り込んでいます。

利益率は若干上昇しました。

機能材製造事業では、売上高は前期比横ばいの466億円を確保しましたが、セグメント利益は前期比8.9%減の67億円にとどまりました。

石油関係、ケミカル触媒及び環境保全触媒が順調に推移した一方で、米中貿易摩擦等の影響によりファインケミカル分野の減速があり、利益率が低下しました。

#### 4. 連結貸借対照表 (決算短信 P.6~7)



次に連結貸借対照表です。

総資産は375億円減少し6,712億円となりました。

固定資産が337億円減少しておりますが、これは政策保有株や事業投資案件売却による投資有価証券の減少が主な理由です。

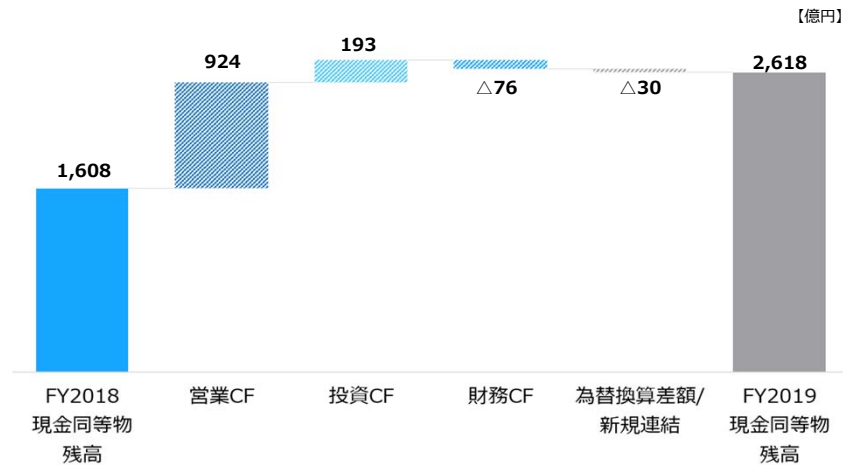
負債の部では、固定負債が230億円減少しております。今年償還の社債200億円の流動負債への振り替えが主なものです。

純資産は配当金支払に加え為替換算調整勘定のマイナスにより193億円の減少となりました。

自己資本比率は58%でした。

JVキャッシュの当社持分は1,419億円であり、ジョイントベンチャー運営上の資金繰りは順調です。

## 5. 連結キャッシュ・フロー計算書 (決算短信 P.12)



7

次に連結キャッシュ・フロー計算書です。

現金及び現金同等物は、今期、約1,000億円増加し、期末残高は2,618億円となりました。

イクシスLNGプロジェクトでの立替負担の終了、アルジェリア案件での入金により営業活動によるキャッシュ・フローは924億円のプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは政策保有株の売却や保有意義の見直しに伴う事業投資資産売却を進めた結果、193億円のプラスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー・マイナス76億円は、配当金支払などによるものです。

キャッシュ残高に加え、取引先金融機関との間で300億円のコミットメントライン契約も締結しており、現時点で手元流動性に問題はありません。

## 6. 受注の状況 (決算短信 P.18)



### i) 受注高

【億円】

FY2019 実績	
海外	624
国内	1,271
合計	1,896

次に受注の状況です。

受注高は1,896億円にとどまりました。

主な受注案件は、国内の発電関係、医薬関係などです。

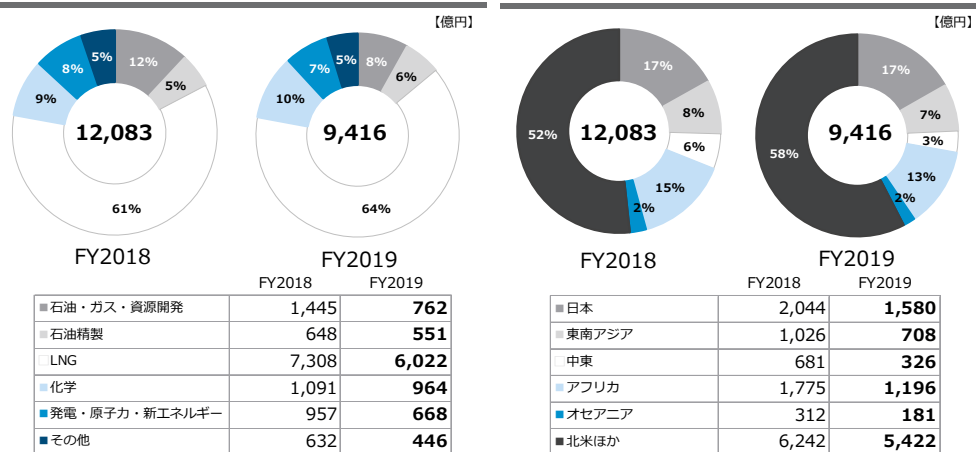
第4四半期の受注を期待していたモザンビークLNGプロジェクトは顧客の投資決定が延期され、受注計上に至りませんでした。



## ii) 受注残高

分野別

地域別



	FY2018	FY2019
石油・ガス・資源開発	1,445	762
石油精製	648	551
LNG	7,308	6,022
化学	1,091	964
発電・原子力・新エネルギー	957	668
その他	632	446

	FY2018	FY2019
日本	2,044	1,580
東南アジア	1,026	708
中東	681	326
アフリカ	1,775	1,196
オセアニア	312	181
北米ほか	6,242	5,422

FY2019 主要案件	1,000億円以上	500億円以上	300億円以上
		LNG (カナダ)	FLNG (モザンビーク)

次に受注残高です。

2020年3月末の受注残高は9,416億円となり、前期末から約2,600億円減少しました。

主な案件は、LNGカナダプロジェクト、モザンビークFLNGプロジェクト、タイの化学案件、国内のバイオマス発電案件です。

## 7. 2020年度の業績見通し



本業績予想は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が今後著しく悪化せず、2021年3月期中に当社グループの事業環境が正常化する前提で算出しています。

【億円】

	FY2019 実績	通期予想
受注高	1,896	<b>6,700</b>
売上高	4,808	<b>4,800</b>
売上総利益	433	<b>430</b>
利益率	9.0%	<b>9.0%</b>
営業利益	202	<b>200</b>
経常利益	223	<b>230</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	41	<b>80</b>
1株当たり配当金	12.0円	<b>12.0円</b>
換算レート(米ドル)	-	<b>107円</b>

10

最後に2020年度の業績見通しです。

この予想は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が今後著しく悪化せず、年度中に事業環境が正常化する前提で算出しています。

受注高は現時点で実現可能性を見通せる案件を中心に6,700億円を見込みます。

売上高以下は、新規受注案件による売上計上は限定的に見て、受注残高に既に計上している案件の進捗を中心に予想しております。

売上高は4,800億円。

売上総利益は430億円。

営業利益は200億円。

経常利益は230億円。

ここまでは前期実績並みとなります。

親会社株主に帰属する当期純利益は80億円です。

税負担については、引続き、外国税額控除が使えず、外国税額が二重課税になるベースで予想しています。

資産売却や減損といった特別損益はこの予想に織り込んでいません。

1株当たり配当金は12円。配当性向は37.5%の予想です。

この予想に使用した換算レートは1米ドル107円です。為替レートの変動による影響は、1円当たり売上高30億円、粗利益1億円、経常利益3億円です。

2019年度の決算概要の説明は以上です。

## 参考資料

## 参考（2020年度のセグメント別見通し）



本業績予想は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が今後著しく悪化せず、2021年3月期中に当社グループの事業環境が正常化する前提で算出しています。

【億円】

	総合 エンジニアリング	機能材製造	その他 (調整額含む)
売上高	4,320	420	60
セグメント利益	150	50	0
利益率	3.5%	11.9%	0.0%

## 参考（地域別売上高、受注高）



### 売上高

【億円】

	FY2018		FY2019	
日本	1,953	(31.5%)	<b>1,930</b>	(40.2%)
東南アジア	640	(10.3%)	<b>627</b>	(13.0%)
オセアニア	306	(5.0%)	<b>76</b>	(1.6%)
アフリカ	931	(15.0%)	<b>649</b>	(13.5%)
中東	923	(14.9%)	<b>488</b>	(10.2%)
欧州・CIS	1,168	(18.9%)	<b>55</b>	(1.2%)
北米ほか	269	(4.4%)	<b>980</b>	(20.3%)
合計	6,192	(100.0%)	<b>4,808</b>	(100.0%)

### 受注高

【億円】

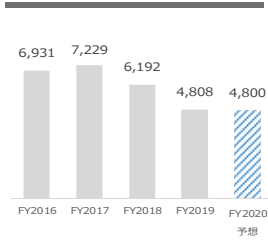
	FY2018		FY2019	
日本	1,333	(14.3%)	<b>1,271</b>	(67.1%)
東南アジア	941	(10.1%)	<b>294</b>	(15.5%)
オセアニア	213	(2.3%)	<b>6</b>	(0.3%)
アフリカ	20	(0.2%)	<b>84</b>	(4.5%)
中東	405	(4.3%)	<b>124</b>	(6.6%)
欧州・CIS	300	(3.2%)	<b>23</b>	(1.3%)
北米ほか	6,139	(65.6%)	<b>89</b>	(4.7%)
合計	9,354	(100.0%)	<b>1,896</b>	(100.0%)

## 参考（業績推移-通期）

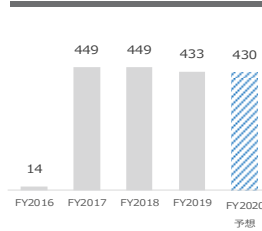


【億円】

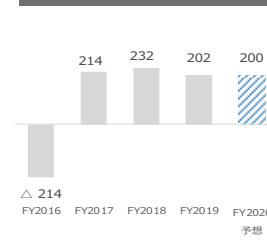
### 売上高



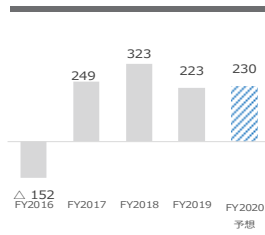
### 売上総利益



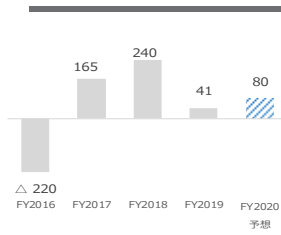
### 営業利益



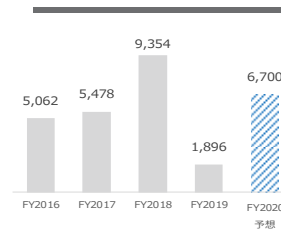
### 経常利益



### 親会社株主に帰属する 当期純利益



### 受注高



## 将来の見通しに関するご注意事項



本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

<本資料に関するお問い合わせ先>  
日揮ホールディングス株式会社  
グループ経営推進部 コーポレートコミュニケーショングループ  
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112  
E-mail: ir@jgc.com